

第2回甲州市学校再編審議会 会議録

I 会議概要

- 1 開催日時 令和元年9月25日(水) 13:30～16:05
- 2 開催場所 甲州市役所2階 第2会議室
- 3 出席者 雨宮 亘委員、岡 武男委員、古屋 久委員、小林一三委員、伊藤和良委員、渡邊 靖委員、加山大洋委員、三森俊彦委員、手塚智彦委員、五十嵐妙子委員、山本 睦委員
<事務局職員> 教育長保坂一仁、教育総務担当リーダー清水 修
学校教育担当リーダー河村 敬
- 4 次 第 1 開会
2 会長あいさつ
3 教育長あいさつ
4 議事
(1)甲州市学校再編に関する検討について
(2)その他
5 その他
6 閉会
- 5 配布資料 資料 1 小規模な学校及び大規模な学校の特徴について
資料 2 小学校及び中学校の維持に要する平均経費
資料 3 中学校での部活動の状況

II 会議録

1. 開会

事務局：こんにちは。ただいまから第2回甲州市学校再編審議会を開会いたします。なお、小林一三副会長、山本睦委員は他の会議があるとのことで、遅れてご参加いただけるとのことでございます。また、坂本委員は所要のため欠席とのことでございます。事務局の村松教育総務課長につきましては、急遽の用務のため欠席とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、雨宮会長からご挨拶をいただきたいと思います。会長よろしくお願いいたします。

2. 会長あいさつ

会 長：前回のアンケートの取扱について危惧していたが、新聞紙上では総数で見られて

しまった。この会でアンケートを取るとか、意見を聞くとかといったこともあるかと思いますが、十分踏まえながら会を進めていきたいと思っています。

事務局：つづきまして教育長よりごあいさつをいただきます。保坂一仁教育長よりお願いいたします。

3. 教育長あいさつ

教育長：忙しい中、残暑の中お集りいただきありがとうございます。子供たちの様子を話させていただき挨拶に変えさせていただきたいと思っています。9月は学校行事の多い月であり、7、8日は中学校で学園祭が開催されました。私ども教育委員会としては、コミュニティースクールにより地域の皆様にもご支援をいただきまして、学校づくりをしようということで、進めています。地域の皆さんと一体となって学園祭が進められ、学校によっては生徒より多い皆さんが集まって活気のある、文化活動においては、非常にレベルの高い文化行事を行っていただきました。前回も話をさせていただきましたが、全国学力状況調査においても非常に良い成績を収めまして、落ち着いて、地域の力をお借りして充実した学校生活を過ごしております。今週は小学校の運動会が実施されますが、こちらも、地域の力をお借りして、子どもたちの元気のある運動会にしようと校長先生を中心に進めています。友好都市であるフランスのボヌ市へ中学生が8日ほど訪れて、ホームステイをしながら、フランスの文化や歴史に触れながら、30名が昨夜帰ってきました。勝沼地域と交流があり、2年に1度訪問しているということで、子どもたちの大きな財産になったかと思っています。前回お示しした、児童・生徒数の推移やアンケートの状況からも厳しいご指摘をいただいています。また、甲州市全体で進めています、学校施設整備計画は30年、40年先を見通した整備計画となっております。前回多くの資料をお示ししましたが、実態把握が完全に行われていませんので、小中学校の現状をお話ししたり、課題となっていることについても、議論を深めていただければと思います。

4. 議事

事務局：それでは議事に入らせていただきますが本委員会の設置要綱第6条によりまして会長が議長になっていただくことになっておりますので、雨宮会長には議長となっていただきまして進行の方をよろしくお願い申し上げます。では、よろしくお願いたします。

議長：それでは議事に入ります。話し合う項目建てを若干しなければ、それぞれが、思いついたことを話すというわけにもいかないと思いますので、提案させていただきます。文科省の資料によると適正学級は小中学校ともに12学級から18学級となっておりますが、本市の状況をあてはめると、数校でしかない。ほとんどが、下限の方に近い小規模校であるということであると思います。そういう小規模校のままで学校を設置していいのか？という話だと思います。小規模校における学校教育あるいは、本市の学校教育がどうなのか。先ほど教育長からは、学力検査あるいは、諸行事においては地域の協力を得て、良い成績を得ているとのコメントがありまし

たけれども、そういう状況の中で、適正規模を論議していくわけですので、統合ということにするのか？保護者の方は、お子さんがいる学校をどうするのか、地域の方は、地域からみて、学校の様子はどうなのか、良い点を挙げてもらいたい。比較的少人数で運営されている学校の良さをあげてもらいたい。次に、その中で課題となっている点は何があるのか、ご自分の考えで話していただきたい。なお、小学校と中学校は発達単位からいっても、学級数、児童・生徒数は違うと思う。小中学校の違いをはっきりさせながら、小学校ではよくても中学校では、というところもあるかと思います。まずは、少人数で運営している小中学校の良さは何か、改めて話していただけたらと思います。後日の議論となると思いますが、今のままで運営していくのか、方向転換を図るのかと云ってことを論議せざるを得ないと思います。今のまま進めるにせよ、方向転換するにせよ、市教育委員会として留意したり、力を注いだりしていくべきことは何かを第3の議題としたいと思います。まずは、小規模校の良さを具体的に話していただきたいと思います。

委員：2年前に神金小学校の校長をしていましたので、神金小学校の学習の一環として行っていることは、地域と一体だったと思っています。学校林を持っていますので、春になると、全児童と全保護者が学校林の伐採や巣箱作りをやっています。低学年はそこまで歩いて行きますが、地域の学識経験者が神金地区の植物や自然を話しながら連れていく。高学年は、保護者と現地集合で活動する。午後には、学年ごとに下草刈り、巣箱作り、枝打ちを行っています。それから、年間を通して、公民館と連携して神金フォーラムとして、神金地区の文化財や歴史について学年ごとテーマを設けて、公民館主事とも連携し地域のいろいろな方を紹介してもらい、例えば、5年生では大菩薩について発表する中で、昔は、籠を背負ったとか、裂石で石を切ったということ詳しく調べて発表したり、集落について地域の方から話を聞き、集落の特徴を発表したりしています。1年目は、公民館で行いましたが、2年目からは、体育館に、塩山北中、大藤小、玉宮小の児童・生徒にも来てもらい発表しています。年間を通してやっているので、各学年が地域に飛び込んで行って、触れ合う中で行っています。これこそが、小さい学校だからできることだと思っています。住んでいながら知らなかったことを子どもたちから教えてもらっていると、地域の方も喜んでいて、発表会を通じて、神金の歴史が語り継がれていく、地域と一緒になった取り組みだと思っています。大藤小にも勤めていましたので、三校合同で、簡易テレビシステムへの取組も行っています。

委員：大藤小学校は、1クラス3人と云ったクラスもあり、ほとんどが3～5人のクラスです。3人で話し合いをしても、あと2人しか違う意見を聞くことができないことから、もう少し大勢の意見をきくことができないかとのことから、国の少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業を活用し、大藤、神金、玉宮小に簡易テレビシステムでここにしながら、他校の意見を聞けるようにしました。小規模校ではありますが、少し大きな規模の学校と同様な学習ができるようになりました。

委員：また、タブレットを利用し、子どもたちが早くから使えるようになって、みんな同

様な教育ができるのも小さい学校ならではないかと思えます。

委員：修学旅行や校外学習も3校合同で行っており、行事の前の打ち合わせも簡易テレビシステムで行っている。

議長：今、小人数の学校の良さを地域から見たり、学校に勤務されていた方から感じたことを話していただきました。

委員：玉宮小では、竹森のホタルを守る会があって、地域の人竹森川の自然を守る活動を行ったり、竜神池を作ってくれて、里山の自然を守る活動を地域の方々と行っています。

委員：PTAの役員で来ているが、たまたま代表であるので、ここで発言しても私の個人的な意見になってしまいます。いついつまでに、話をまとめてきて欲しいと言われてもまとめてくることも可能です。個人的な意見は置いて、全体で協議して、PTAはPTA、地域は地域の意見を持って協議した方が、進むのではないのでしょうか。

先ほど、小規模学校の意見として発表していただいたが、どうせタブレットを使うならば、全国に広げて、北海道、沖縄など遠い地域の方とやってもらえないかと話しましたが、システム上できないとのことでしたが、大きな規模で行ってもらえれば、有意義ではないかと思っています。

議長：それぞれの委員さんの立場は、各会の代表者ではありますが、そこにこだわらなくて良いと思っていますが、責任があると考えていらっしゃるなら、それぞれのお立場で意見を述べるとなると、個人的に参加されている方もいるので、それはできなくなってしまいます。必ずしも、こだわらなくてよろしいかと思えます。

教育長：時間を区切ってはいけないのですが、12月までに方針を出してほしいとお願いしたところですが、組織によってはそういった話し合いをしていただくのはありがたいことですが、方針が決まったら、学校をめぐって説明をしたいと思っています。

議長：この会は、ベースの意見で、あとは教育委員会がどうするかという問題ですよね。どこまで立ち入った答申をするのか。統合を進めよとするのか。統合やむなしとするのか、もう少し検討してほしいとするのか、概ねその3点しかないと思っています。そのベースになるところを、例えば市連Pの会合の中で、問うてはいないですよ。当事者校もアンケートが来るから、なんとなく委員会であるいは議会で話題になっているから手を付けるのかな、というような感触でみなさん見ていると思うのですよね。この会が責任ある答申を出さなければいけないのか。論点を整理して、教育委員会にお任せしますとするのか、あるいは市議会にどうでしょうか。とするのか。どこのレベルまでやればよいのか。ということだと思いますが。論議するときには地域の学校の様子を把握して、論議しているかは問題だろうと思います。個人的でもというのは、自分の学校でなくても小人数の学校の良いところを出していただいて、課題についてもみんな意見交換していただいて、そのことに関わって教育委員会がやるべきことがあるのか、ないのか。現状のままでも課題となっていることをクリアできる政策がとれるのかどうか。もし取れなくて、子どもたちが大変

な思いをしている状況ならば、それは変えなくてはいけないだろうと思います。2人の委員から、神金、大藤、玉宮小の取組が紹介されました。今、一生懸命取り組んでいることは良さなのか、課題となっていることに取り組むことによって、小規模校でも教育活動が充実するようにしています。ということにするのか。そういった意味合いで、みなさんに整理していただきたいと思います。こういう良さもある、こういう課題もある、比べてみれば子どもたちにとってやはり課題の方が大きいから、ここで何とかしなければ、あるいは、いろいろな手立てをすればなんとかなるよ。文科省でもいくつかのサンプル事業を行っています。統合してやっていく。統合しないでやっていく。2つの方法でやっています。統合しないでやっていく3校くらいの事例をみさせてもらいましたが、そこにお金を出して、実験事業を行っているところもあります。あまり地元から離れてもいけないので、具体的には塩山北中学区、菱山小、大和小といったところが論議として出てきてしまう。単独でやるのが良いのだとなれば、資料をいただいたり、予算化してもらおうということになるかと思いますが、つまり、統合しないということになるかと思いますが、判断していただく、こういうことを検討しましたと言える論議をしていただきたいと思います。3校でやっている様々な良いことは小規模校ではできない。3人ではいろいろな人の意見を聞くことができないから、地域周辺の同学年の子どもたちとテレビを使うことで課題をクリアしようとしている。3人では学習環境が十分ではないのではないかという面を持っているのではないか。という先生方の認識がそこにあるのでしょうか。統合まではいかないけれども、補完したり、もっと充実した学習活動を展開したり、地域の活力を借りて、子どもたちがいつも同じ顔ぶれの中で、学校活動や発表ができることで学習活動が深まる取組、社会性も身につけさせたい。ということになると、裏には、固定化された学習集団が十分な学習成果を生むことは難しいという先生方の思いがある。国語や算数など基礎的な学力についていえば、少人数の方が良いというような話も出てくるのかなと思います。あれをやろうこれもやろうではなく、それをやることによって、子どもたちは生き生きとしています。でもそこには限界もあります。という思いで聞いていました。両側面があるのでないかとおもいますが。

委員：全国学習状況調査の結果を校長先生がまとめてくれて、PTAに配付してくれました。甲州市の成績は全国にも引けを取らない成績で、本校の6年生は、国語で80%、算数で90%、全国トップクラスの成績を上回った。これは、小規模校ではあるが、応えてくれた子どもたちの成果だと書かれています。中学校でもそうでしょうけど、平均点が市の中でも、県でも良かったと思っています。これは、手にかかる子供がいないので、よい成績をとることができたと思っています。先生方の指導もあるし、地域のバックアップもあろうかなと思います。昨日、たまたま県議会を傍聴する機会を得ました。甲州市選出の県議が少人数学級の推進について質問していました。知事、県教育長からは、さらなる学力の向上を目指して、きめ細やかな指導と支援が必要であって、25人学級を目指していきたいとの答弁でありました。22年間

も小学校の運動会や中学校の学園祭に参加させていただいているが、子どもは少なくなっただけですが、少ないなりに1人が何役もこなしています。成長にも社会性にも大きく寄与していると思います。ポーヌへ行ったと教育長から報告もありましたが、さっそくお土産をいただきました。地域と密着しているからこそと感じました。

委員：学校が再編されると通学が大変だとアンケートからも出たが、現実にも1時間以上かけて、塩山南小に通学していると聞いています。1年生も6年生も同じなので、大変だなと感じています。区長会でも話をしてみました。街中の方々は気にしていないように思います。遠方の方々は通学距離を気にしています。6年間通うことを考えると、一つの方法かとの意見が出されました。子供たちが増えることで良さも出てくるといった意見もありました。全体では、学校は残した方が良いのではないかと意見が多かったと思います。財政的には相当厳しくなっているのではないのでしょうか。お年寄りが増え、子どもたちが減っていくとなるとどこかで、何かを変えていかなければと感じます。

議長：塩山南小学区で一番遠いのは、下塩後、下萩原でしょうか。

委員：下塩後は住民が増えているので、長い距離を歩くのは大変だと思います。

委員：審議会について、新聞報道され、審議が始まったことは皆さん分かってきています。統合ありきなのか、小規模校のメリットデメリットの中で、どうしていったらよいのか、考えていくのですが、アンケート結果をじっくり見させてもらいましたが、これからのことをいろいろ考えているなど感じました。検討していくことも大事だと思います。塩山、勝沼、大和それぞれの立場が違うと思います。簡単でも良いから、住民の意見を聞くのも良いかと思っています。

議長：今後どうしていくか、皆さん気にされていると思います。地域にどう説明していくか。地域の意見をどう聞いていくか。論議しないといけないと思います。

委員：アンケートを個々の家庭に渡されて、個々の考え方のまとめであり、保護者の方も結果がどうなったのか、新聞の記事の結果のみでしか回答がないので、いただいたアンケート結果の後ろには保護者の方のいろいろな意見、賛成の方も反対の方の意見を見ると、同じ小学校でもいろいろな考え方があって、こういう考え方もあるなど、反対派の方の意見もわかるし、気にされている方はこの審議会の事もすごく気にかけています。アンケートを回答した保護者の立場としては、小学校を通してでも良いので、一人一人の保護者に返してもらいたいなど、コピーが大変かもしれないが、一人一人に読んでもらいたいと思います。他の委員がおっしゃったように、小学校単位で話し合いや意見を出し合うような機会を設けてほしいと思います。

議長：地域や保護者の方にどのように情報をお示しして、どういう論議をして方向性を示すのか、あまり向こうへ行ってそれをどうするか決めるわけにもいかないの、区長会やPTAの方々は地域と保護者の代表の組織だとの認識をして、アンケートの結果を示すことが必要かなと思います。できれば、説明したり、話を聞く機会を考えてもらい、意見を集約すべきだと思います。その意見を持って、教育長や教育委

員会で議論していただくことになろうかと思えます。

事務局：アンケートの結果については市HPにて公表しています。各学校にも配布をしています。周知の方法については、検討してまいります。

委員：このアンケートがすべてではないと思えます。アンケートも賛成が2項目、反対が1項目でありました。学校としてもこれを保護者に配るわけにはいきません。慎重にいくべきと思えます。これから入学する保護者の方や地域にもとっていない。地域に学校がないと困る。神金、大藤も保育所が閉園したら子供が少なくなったので、学校がなくなると困るといった方は反対するだろうし、学校がなくてもという方は、賛成するかもしれないし、予算が少なくなると思う方もいるかもしれないし、立場々々で全然違ってくるので、再編する方向ならば、もう少しちゃんとした方法で違う面でのアンケートの取り方もあるので、考えていくべき。市P連の取組として、もっと早い時期に分かっていれば取り組めたが、急な話だったので申し送りにして、来年度の一番大きな取組に据えています。

委員：偏った意見が出やすいようなアンケートの取り方をしているが、その結果が新聞に出たり、HP上に公表されていることに怖さを覚えています。前提条件がない状態でアンケートを取るべきだったと思えますし、賛成が2項目、反対が1項目では賛成する方よると思えます。そういったところに注意して再度アンケートを取るべきと思えます。また、ゴールの設定をすべきと思えます。審議会がどこを目指しているのかよくわからない。どういう答えを出せばよいかわからない。最終的なゴール地点を示してもらいたい。対象についても、小規模校と言うのは具体的にどこの事を指しているのか示してもらいたいです。

委員：先ほどアンケートのところで、パーセンテージの部分を出すのではなく、自由意見欄に目を通してもらいたいとの意味で、発言をしました。

議長：諮問を受けたのは、再編はどうあるべきかとのことであって、今までの議会の中で教育長が答えた検討するとの方向性をもって、私どもからの答申がほしいとのことです。

委員：議論するにも材料がなさすぎるのではないのでしょうか。今回2回目、何について議論するとの話もなく、こういう風に詰めていきましょう。との道筋が見えてないので、一般的な話で終わってしまっているのが現状と思っています。

議長：答申を出すにあたって、個人としては統合を考えていくのか、考えないのかを答申し、それを受けて委員会としてどうするのか。という部分が欲しいということであれば、今まで様々なところでやってきた、メリット、デメリットをお示しし、どちらにしますかという答えしかならないと思えます。その中で、市としてはこんな支援をしてきました。こんな積極的な努力で統合にいかないですんでいます。というようなことを言いたいのか。そのような答申を出していいのか。ということだと思います。教育長としてはどのようなお考えでしょうか。

教育長：この職を受けてから、議会でも毎回のよう議論されてきました。議員の中では具体的に中学校は1校でよい。との発言もあつたり、市長部局で総合教育会議が組織さ

れており、市長からも大枠で教育をどのように進めていくか、新しい教育委員会制度の中では市長の意向も大きな位置を占めています。教育委員会としても市長と議論しながら大綱で方向性を示しています。その中で市長は、中学校は統合をすべきである。との話を何度もされました。議会の中で、公的な文章として発表されています。教育委員会としては、できるだけ学校を残したい。との方向で今までは進んできました。その中で市長の方針とか、様々な会議に出席した折に、統合について進めて欲しい。との意見が、大分出されておりまして。しかし、地域の核となる学校は残したいとの方針で進めて参りましたが、いつまで守っていくことが必要なのかということも考えまして、審議会を立ち上げて、専門的な皆様のそれぞれの立場の中で総合的に判断していただいて、その意見をしっかり位置づけしまして、教育委員会にかけて方向性を出していきたい。と思っています。この問題をいつまでも放っておくことは、子供たちの教育環境をよくする方向性からも、ずれているのではないかと思っています。しかし、我々が今できることは、小規模校であっても、学力保障であったり、成長保証であったり、現在の子どもたちには絶対に迷惑をかけたくない、最善のものをやってあげたいとの思いから、複式校についても解消のために職員を配置したり、テレビ簡易システムであったり、U-tab といって多人数で交流できるようなシステムを開発して、子どもたちにはデメリットにならないように進めて参りました。先ほどから出ております、ゴールが見えないとの意見が出されましたが、教育委員会の方向性としては、中学校の統合については部活動の問題であったり、子どものこれからの社会性を考え、10年後、20年後を見据えたときにある程度の学級規模が必要かなと考えます。個人的な見解も交えていますけども、参考にしていただいて、教育委員会として方向性をポンと出すことはあってはならないことですので、いろいろな人の意見を聞く、特に今日お集りの皆さんはそれぞれの立場の代表の方でありますので、そういった方の意見を聞くことは大事なことと思います。それを、地域の皆様にお示しして、やっていく段取りであります。

議長：子どもたちを中心に考えていく必要があるでしょう。教育活動の本筋からすると、子供たちにとって望ましい教育活動ができる。あるいは、課題があるから、創意工夫をして乗り越えていく。といったことでしょうか。地域に学校があることによって、地域の活動がどうなるのか。相互に非常に絡んでいることですので、大切に考えて、統合なり、現状で行くなり答えを出していく。ということになるかと思います。そのために、論議をたくさんしていただく。事態としては由々しき事態であり喜んでいられない状況です。子供たちの教育、学習集団ということ踏まえて考えますと、一定の学習集団が形成できる数が欲しいということは大きな課題だろうと思います。ただ、周辺、世界的に見てもオーストラリアでは月に1度学校へ飛行機で行く。後は、パソコンでシステムを通してやり取りをする。そういう教育も世界ではたくさんあると思います。方や、学校へ行きたくても行けない子どもたちもいっぱいいる。私たちは、甲州市の事をどうしていこうか。ということだと思います。甲州市の学校現場がどうなっているのか。地域から見てどういった役割が学校に対してあるの

か。といったことが論議されるべきだと思います。そういった論議を踏まえて舵取りしてほしいというしかないと思います。予算から舵取りはしてほしいなというのが私の考えです。学校教育に関わってきた立場もありますが、区長や公民館長をやった中で、地域に学校があることが大きいと感じます。学校に対する願いや期待をちゃんと確認させていただいて、判断していただきたい。アンケートの取り方や設問の中身も今となつては、こうした方がよかったとの意見もあるかと思いますが、保護者の方にお返しするにも、数字ではなく、いろいろな意見の方が賛成、反対両方にいるということを知っていただく。学習していただく。そうしたうえで、意見をいただき、今後の甲州市の教育の適正規模を聞けたらと思っていました。教育長や市長の立場は今話していただいたとおりです。市長が統合を考えているならば、いろいろな課題をクリアしてやってもらいたいといった意見が必要となります。かつては、一ノ瀬分校も論議され、保護者の要望に応じて1人でも学校を開いたこともあります。

委員：それも、保護者の要望で開いたが、数年で転出しました。そういった問題もあります。

議長：そういった問題もありますので、住民や保護者の思いはとても重いので、十分に意見を聞く必要があると思っていました。意見の聞き用を今更しても仕方ないかなとも思っています。

委員：中学校に関しては、菱山中と勝沼中が統合した時、菱山地区の8割から9割が塩山中に登校しました。勝沼中へ行ったのは2割程度でした。菱山から来た同級生は溶け込んでやっていたように思いました。中学校は部活の問題もあり、塩山の人が勝沼へ行ったり、松里の人が塩山へ来たりしていると聞きます。統合も進めていかなければならないかとも思います。

委員：市長の考えは、中学校はまとめて、小学校は手を付けない方向のようですし、教育委員会も小規模校への配分もしながらやってきている。アンケートの中でも例えば、大和中の父兄の方たちはすべきでない意見が多い。現状が良いとの意見が多い。逆に塩山中では受け入れる方なので、真剣ではないかもしれない。学校規模をみると、小学校では1学級10人未満が5校もあり、複式を解消する方向性を教育委員会が持っていて、地域に伝えることも必要だと思いますし、ただ人数が減ったしお金もかかるから統合しようということではないと思います。部活がないからというのは逆ではないかと思います。部活が大事なことはわかりますが、部活が問題ではないと思います。教育は授業をしっかりとやらせてもらうことだと思います。

議長：様々な意見をありがとうございます。学校再編に対しての諮問ですので、再編について審議会としてどう考えるかということだと思います。その点に対して意見が集約できればと考えています。再編に向かってスタートすることがやむを得ないとするのか、再編しないで現状維持をしていくのか、ということだと思います。どちらかの意見に決めても、どちらにも課題はあると思います。その課題に対しては意見を付与して、答申することにしたと思います。再編するにしても、小・中学校で

ニュアンスが違ってくるかと思imasので、小・中学校を分けて考えたいと思imas。中学校は再編する、小学校はしない。両方しない。両方する。この3つだと思imas。アンケートについても、様々な意見が寄せられていますので、学校、PTAで参考にしていただいて、まとめていただく。アンケートだけでは言い切れない部分もありますので、棚上げにして審議会としてどうするのかといった方向でやっていきたいと思imas。現状の子どもたちの様子が何人かの方から、話がありましたが、小規模校でもがんばっていて、足りない部分は地域の支援をいただいでやっている。そのことによって、むしろ新しい成果を出している。あるいは、足りない部分は近隣の学校と合同してやっている。部活では合同でやっているところもありますね。新しい取り組みとして認めてきていますね。子供の願いをかなえるなら、認めざるを得ない状況なのかもしれません。中部地方のある県では小中で先生たちが相互に入り込んでいるところもあります。統合しない中でもそういった取り組みがなされています。委員からは、中学校では部活の問題があるとの意見と、部活が中心ではないとの意見も出されましたので、皆様の意見も聞きたいと思imas。

事務局：小規模校及び大規模校のメリット、デメリットとして一般的なものではありませんが、提出をさせていただきます。また、参考として過去3年間の小中学校に關しまず決算の状況、中学校の部活動の状況を併せて提出させていただきます。

委員：部活動の状況の中で、塩山北中と山梨北中と合同とありますが、松里中の誤りです。

事務局：申し訳ありません。訂正させていただきます。

委員：新人戦でも、いくつかの競技で合同チームを組んでいます。

議長：そういう風にして、課題をクリアしているようですね。

委員：部活ということで、大和の子どもは大変少なくて、大和に自分のやりたい部活がなく、他の学校へ行ってやっているとのことですが、児童、生徒の希望があるでしょうが、かつて大和地区から他の中学校へ行ったところ、部活が厳しくついていけなくなったことがあったと聞いています。スポーツ少年団でやっている子ならば、問題はなかったかもしれませんが、初めてだけどやりたいとのことで、学校を変えてもらったがついていけなくなった。という事例もあります。部活ありきというのは心配です。

委員：部活だけで、学校を変えるというのはおかしいと思imas。どうしてもというなら、籍は本来の学校において、部活だけやりたい学校に行くような仕組みが必要と思imas。部活がやりたいから、その中学校へ行かなきゃならないというのは違うと思imas。

委員：当該中学校に在籍しなければならない規則があるんです。

委員：仕組みにいくつもの問題があるのは、わかっています。確かにやりたい競技が、最寄りの学校にない現状がありますが、それを言い出したら、リストに載っていない競技はいくつもあると思imas。

委員：学校でそれを全部やるのではなくて、社会体育とか方法があると思imas。

委員：学校教育の中のスポーツ振興については、日本独自の仕組みなのもわかりますが、

学校再編の話をするにあたって、部活ということが中心になるのは違うと思います。

委員：再編審議会に出席するにあたって、自分の中では中学校は統合して、この会でどことどこが一緒になって、そのためにはこういうことが必要ですね。というような会議になるかと思っていました。少人数の学校が良い、少人数の学校を残していこうというような方に向かっていったような気がします。少人数の小学校にもいたので、残すべきかなと思いますが、お金のことは言うてはいけないとのご意見もありましたが、この話が出てきた一番のものは、市の財政状況が本当に厳しい状況にあるとこのことからだと思います。例えば、A中学校とB中学校の備品でこういうものを買いたいけれども、予算的にはこれくらいしかない。合併すれば、これくらいの備品も買えるようになる。などプラスになることもある。合併した時の市の財政も考えると、よいのかなとも思います。今ある学校は残していきたいというのは、誰もが思うことです。残していくとなると、市の財政はどうなってしまうのか、極端には破綻してしまう恐れも考えてしまいます。市民から、あれもこれも行政でやってほしいとサービスを追求していると思います。学校という単位で考えていくと、小学校は地域で根ざす部分が多いので残していくべきだと思います。中学校はある程度の規模になってやっていくと、切磋琢磨ができると思います。小規模校も大規模校もそれぞれメリットがあるので、どちらが良いとは言えませんが、個人としては中学校を統廃合して、ある程度の規模の学校でやっていったらと思います。そのためには、スクールバスや、男女協働とかこの会できちっと話をした方が良いのかなと思います。

委員：教育の予算がどれだけ市の財政を苦しめているのか知りたい。削減については言われるが、ほかの部署がどれだけ削減しているのか聞きたいです。教育現場の予算を下げたらどうにもならない。何かにつけ予算が、と言われるが、そこが一番納得できないです。ここでは予算の事は言うてはいけないと思います。

委員：自分の子どもに、学校が無くなるのは、予算がないからだよとは言えません。

委員：石和の環境の悪いところでも、教育への予算は多くかけています。ここは、環境も良く、子どもたちも先生たちも一生懸命なのになぜ減らされるのか。三つの案が示されたので、持ち帰って、それぞれの立場で聞きたいと思います。

議長：私もお金のことから入るべきではないと思っています。少人数教育の方が良いのだということではなく、少人数教育だけどやるしかないということだと思います。地域も、保護者も学校を支えてくれていると思いますので、この会ではそこを認めてあげて、議論をしないといけないと思います。それぞれの学校の様子はだいたい伝わってくるかと思っています。個人としては、小学校は少なさを補うために、いろいろな手立てを講じている。中学校は、教育活動についてはどこの学校も遜色なくやっているといます。働きかける機会がどのくらいあるかと比べた場合、小さいより大きい方の跳ね返りが大きいので、その子にとっては教育効果が大きいと言えます。少人数でも、二けたに近い数でないと、との思いはあります。ですから、そこに複式学級といった発想が出てくると思います。小学校は、小さくても頑張っ

てきた。中学校は、社会性の問題や、現に、音楽活動では塩山北中は全校でやって成果をあげている。ただ、小規模の場合は、課題が小学校より中学校の方が多いうように思えます。デメリットも中学校の方が多いため、具体的に中学校の先生方に論議をしていただいて、解消していくようなことになろうかと思えます。教育活動が変わってきているので、自分の経験からは難しいと思えますが、議論していきたいと思えます。

委員：PTAは今年度たまたま、役員を受けたので、個人の考えをこの場に出してしまってよいのか、危惧しています。甲州市全体を議論しているため、テーマを絞って行った方がよいと思えます。議論が出尽くしたところで、合併再編について、行うのか、行わないのか出していくものと思っています。自分が体験したことをここで述べるのはできるだけ避けた方がよいと思えます。そうすると各校のPTA会長を呼んでくださいとなってしまいます。PTAを代表するほど、各校の状況を把握していません。そんなに責任を背負わされても困ります。

事務局：各分野の代表の方にお集まりいただいておりますが、個人としてご発言をしていただければと思えます。発言の機会を確保するために、非公開ともしています。

委員：12人の委員が集まる会なので、いくつかのテーマなり柱なりを決めて議論し、統廃合については行うのか、行わないのか結論を出していくべきと思えます。

議長：子どもたちの教育活動が、少人数の中でも良いところと、課題があることをここで議論していただくということです。

委員：ここで言う小規模校とは、何人以内のことなのか。文科省の指針も読みましたが、メリット、デメリットの論は出尽くされていると思えます。甲州市の実際の現場で、どうなのか、本当にそうなのか、客観的に付け合わせていく必要があると思えます。

議長：あくまでも甲州市としてはどうなのか、となるとどうしても個別の話になってしまいます。委員会として、その意見をどのように聴くか。メリット、デメリットはそれほど差異がないと思えます。それを克服するために行っていることは様々だと思えます。それは、良いことだけではないと思えますので、デメリットの部分をきちんと出していただいて、論議する。このデメリットではやらざるを得ないという話になるかもしれません。それぞれの学校の様子を出していただくしかないと思えます。

委員：そのとおりだと思います。どちらかという課題を出し合っていくことが必要と思えますが、この12人にまかされてしまってよいのかなと思っています。

議長：学校の教育活動を具体的に論議していくときに、子どもたちと職員たちが作り出している教育活動が、十分な成果を発揮しているかどうかだろうと思えます。成果を発揮していないとすると、どこに課題があるのだろうか、発揮しているのであれば何も言うことはないため、現状で行くということになると思えます。発揮していないのであれば、今も頑張っているとしても、課題を克服するために創意工夫をして頑張っているということになるだろうと思えます。課題の出し方は、委員会として校長先生やPTAの会長さんなりにそれぞれの学校における教育活動の課題を出

していただくのか、事務局で行ってもらうのか。

委員：学校ごとの課題は、義務審の要望書でまとまっているでしょう。ずばり、中学校は統合する。このメリット、デメリットは何かといったことを聞いた方が良いと思います。

議長：ずばり聞いた方がよいでしょうか。保護者の方と職員の方の意見を聞く場を作りますか。それも変ではないですか。

委員：公にはできないので、校長だけの会議がありますので、校長だけに聞き、意見をまとめます。PTAも役員に聞いてくるだけでよいのではないのでしょうか。

委員：この会のゴール地点が分かりません。合併する上での留意する点を議論するのか、再編する、しないを結論づけするのか、それによって残りの会をどうしていくのかがわかると思います。

議長：先ほど教育長から、中学校については統合の方向へとの話がありましたが。

委員：それは行政側からの結論であって、それを踏まえて議論するのですか。それともない中で議論すればよいのですか。

議長：わたしも結論ありきではないと思っています。

委員：それは、こちら側から聞いたので教育長が考えを示してくれたのであって、この会でどうしていくのかということだと思います。次回は、学校関係の意見と地域の意見を持ちより議論していけばよいのではないのでしょうか。

委員：抽象的なタイトルではなく、具体的なテーマを掲げて、議論すべきだと思います。

議長：全5回でおこなう予定だと、4回目は答申をまとめなければなりませんので、次回は、3つの結論を念頭に委員それぞれの考えを出し合っていたいただきたい。教育活動を中心にとらえて、意見を述べていただきたいと思います。市の中で少人数というと、中学は塩山中と勝沼中以外、小学校は塩山南、勝沼、塩山北、松里、井尻、残ったところは対象になってくる。その人数の中で、教育活動が、従前と同様に行えるかどうか。教科の指導、教科外の活動を踏まえて、足りない点があるとか、ほかの方法を考えないといけないといった点に焦点をあてて議論したいと思います。具体的に何かありますか。後は、指導者の問題もあると思います。中学校では教科担任が十分そろわないといったことです。その辺は出し合っていたいただくしかないと思います。

委員：各学校のPTA会長も、自分だけの意見では決められない。ということになります。守秘義務もあると言われてるので、PTAの会議でも新聞報道がなされたことのみしか伝えていません。議論する材料を示していただきたいと思います。

議長：学校の中の境域活動に立ち入って話をきくとなると、立場上むずかしいと思います。学力検査の結果としては、良い結果が出ていることはわかりますが、個々の活動でどういった活動があるかという点では、把握しにくいと思います。メリット、デメリットを市のバージョンで把握して、示してほしいとのことですね。

委員：受け入れる受け入れないとの話もありますが、市全体の学校再編なので、そこは間違えないでいただきたいと思います。

- 委員：いろいろな役をさせていただく中で、学校との関係が密になっているのですが、意見を多く聞いています。小規模校の保護者からは、複式学級でないときは、このままいけばよいとの意見を聞きました。複式学級になったら、意見は大きく変わりました。デメリットの部分が大きくなったのだと思います。大規模校での会議では、編成があるべきだが、受け入れる方はどのように受け入れようかとの意見も聞かれました。大規模校では、夜10時くらいまで職員室に電気がついていることが多いです。先生が多くなれば、負担が少なくなるはずなのに、さらに大変になっているのかと思いました。子供たちも先生たちも平等になれば良いと思います。
- 議長：3回目をどんな内容で議論するかというところですが。
- 委員：例えば、教員の立場で、小規模校の方が教育をしやすいのか、しにくいのか。保護者の立場で、小規模校の方が良いのか、悪いのか。それぞれの立場で議論しても良いと思いますし、立場の違う、なかに投げかけるので話がしにくいのかと思います。アンケートは置いてとの話になりましたが、通学についてはどうなのか、といったことをテーマにして、1つ1つテーマごとに話をしてはどうでしょうか。
- 議長：委員からは、教職員の活動から見て、市の状況はどうなのか。実際の学習活動の中で、少人数というのはどんなメリット、デメリットがあるのか。中学校では、部活の問題もありましたね。通学の視点もありますね。次回は、それらの点に絞って論議をするということよろしいでしょうか。通学の問題は統合後の事項ですので、多少違う面もありますが、3つの点をやったうえで、通学の問題を取り扱いたいと思います。
- 委員：小規模校云々ではなくて、学校再編についての議論ですので、塩山北、南小学区を変えることだって、学校再編のはずです。自分の地域に及ばないと真剣に考えないと思います。
- 委員：先ほど、塩後地区のことも話しましたが、一番遠い子は1時間以上かけて登校している。1年生も同じです。様々な問題があると思います。再編であれば、大きい枠の中で考えるべきだと思います。通学の問題は、再編がなされた後に、教育委員会で考えてもらう事項だと思います。この会では、中学校を再編するのか、小学校まで含めて行うのか、結論を出さないといけないと思います。
- 委員：アンケートも小規模校の再編ではなく、市全体の再編で取るべきではなかったかと思います。
- 議長：委員からの意見にもありますように、柱を立てて議論すべきだったと思います。次回は、先ほどの3点に絞って行いたいと思います。1つは、学習活動を行っていく上で、学校の規模がどのように影響するか。2つ目は、教職員の教育活動が今の学校規模ではどうなのか。
- 委員：教師は大きかろうが小さかろうが課題があって、解消するために努力しており、大きいから大変、小さいから大変とは思って活動はしていません。
- 議長：教師が学習活動を行う上で、子どもの人数がどのような影響を与えているかを知りたい。あとは、複式学級は定数があるからしている部分と、複式の方が良いからし

ている。あるいは複式の問題点を出していただきたい。複式解消と言っているのも、みんなで共通理解をしていきたいと思います。

委員：学校規模と学習効果についてのデータはないでしょうか。

教育長：全国的なものとしては、小規模校が学力は高いとのデータはあります。

委員：後欲しいのは、学区と学校の位置関係をみたいです。先生方の、小規模、大規模の違いによる影響は何かを教えてください。

委員：地域にも影響が及びます。

委員：学校が無くなることによる地域への影響は何があるのかも教えてください。

議長：順序だてて次第に入れてください。

事務局：了解しました。

議長：学区については、白図なりに落とし込んでいただければありがたいです。できれば、実際に通学している子どもの家を落とし込んでいただければありがたいです。せめて、行政区単位ではほしいです。部活動で言えば、部活動を理由に学校を変えている生徒がどのくらいいるのか。

教育長：ここ3～4年の動向がわかりますので、部活動以外の教育的配慮で行っている場合や、市外から来ている場合もありますので、お示ししたいと思います。

議長：小学校も諸事情で学校を変えていることもあるでしょう。

教育長：保護者の関係で変えている場合がありますので、併せてお示ししたいと思います。

議長：では、議事を閉じたいと思います。

9. その他 なし

事務局：次回の日程はいかがいたしますか。予定では10月中となっておりますが、いかがしますか。

10月21日（月）午後7時からに決定する。

事務局：小林一三副会長より閉会のことばをお願いいたします。

10. 閉会

副会長：様々な意見を出していただきありがとうございました。皆さんでまとめたいと思います。ご協力をよろしく願います。本日はお疲れさまでした。